

No.002

平成26年1月春号



一般社団法人 和歌山県LPガス協会

協会だより

〒640-8341 和歌山市黒田102番地の1
TEL (073)475-4740 FAX (073)475-4741
Eメールアドレス wakayamalpg@shore.ocn.ne.jp
協会ホームページ <http://www.wakayamalpg.or.jp/>



新春のご挨拶



会長 池本勝己

新年あけましておめでとう
ございます。会員の皆様には
健やかなお正月をお迎えるこ

ととお喜び申し上げます。

さて、わが協会の昨年を顧みますと、公益法人
制度改革の施行にあわせ、平成25年4月1日「
社団法人和歌山県エルピーガス協会」から「**一般
社団法人和歌山県LPガス協会**」へと法人名及
び名称変更の登記を完了し、新しい法人として組
織運営を開始しました。

平成25年5月31日には、東日本大震災（H
23. 3. 11）や紀伊半島を襲った台風12号
（H23. 9. 3～4）による甚大な自然災害を
教訓として、また近い将来予想されている東海・
東南海・南海の3連動巨大地震による災害の軽減
を目的として、知事との防災協定を締結しました。
それは同時にすべての支部が各市町村長と防災協
定を結ぶことを目的としてのことです。

平成25年6月3日「一般社団法人和歌山県LP
ガス協会」の第一回総代会を開催し、防災を意
識した平成25年度事業計画を立てるとともに、
全国LPガス協会主導のエネファーム・エコウィ
ル・エコジョーズ・Siセンサーコンロ・GHP
・LPガス自動車の主要6商品の普及推進と災害
用バルク・緊急対応機器等の防災拠点への設置推

進する運動「**需要開発推進運動**」の決起集会を
開催し、皆様のご協力をお願いしたところです。

協会職員についても平成25年7月22日より
石井美継専務理事を含め和田敦子・貝原隆子の女
子職員二名と白坂昭雄（講師兼アルバイト職員）
の四人体制で県協会を維持運営することになりま
した。この体制になるまでの五年の間には太地さ
ん（アルバイト）・高山さん・前田さん・桑原さ
んの四人が退職され、石井さん・桑原さん・白坂
さんの三人を採用するという、目まぐるしい職員
交代もありました。その間、会員の皆様方には、
多大なるご心配を掛けたこと、陳謝するとともに、
いろいろとご指導・ご協力を賜ったこと、本当に
感謝しています。ありがとうございました。

新年を迎えた現在のLPガスの価格動向を考え
ると、年始めからアジアを中心にLPガスの需要
増加予測、為替の円高進行、急激なCPの乱高下、
シェールガス輸入量の増加によるCP乱高下の抑
止力・LPガスの安全・安定供給の整備費の増大
等々、内外要因が複雑に絡んだ価格予測がつきに
くいのも事実ですが、都市ガスはここ2、3ヶ月
値下がり状態が続いています。我々もこの価格問
題には業界をあげて真剣に取り組んでいく必要が
あると思っています。

最後となりましたが、会員皆様のご健勝とお店
のご繁栄を祈念申し上げまして、新年の挨拶とい
たします。本年もよろしくお願いいたします。

防災・防犯まちづくり 『防災「地産地消」展』



本年度も8月31日（土）、9月1日（日）、和歌山ビッグ愛で、「特定活動非営利法人 震災から命を守る会」が主催する防災活動発表会が開催され、当協会もブース内に協賛出展しました。

この防災展では、和歌山県内外の企業等が防災関連商品の展示、活動状況の報告を行っていました。

和歌山市内販売店有志の方々のお手伝いを頂き、ポータブルLPガス発電機を展示し、大規模災害時におけるLPガスの有用性をアピールしました。特に、8月15日京都府福知山市の花火大会において、ガソリンポータブル発電機の燃料補給時に屋台の火が引火して見物客3人が死亡、55人が負傷を負う重大事故が発生した直後だけにLPガス発電機への関心は相当高いと感じました。

また、県内事業所の協力を得て、水のサーバーを展示し、災害時にも活用できることをPRしました。

今年は、イワタニ近畿(株)の協力を得て「非常用炊き出しステーション」を展示し、避難場所への常備をアピールしました。

来場見学されるお客様は防災意識の高い方が多く、詳しい説明を求められることもあり、協会としてもこのような機会を大事にし、これからも協賛出展していきたいと考えています。

各地で展示会・フェア

支部主催のガス展示会・ふれあいフェアが開催され、大勢の参加者で賑わいました。

南紀支部では「秋の大感謝祭」と銘打って、10月5日（土）、新宮市の職業訓練センター、10月26日（土）、串本町の町立体育館、11月2日（土）、那智勝浦町の体育文化会館の3会場で開催され、延べ1,300組近い消費者の方々が来場され、大賑わいでした。

また、11月9日（土）に和歌山市支部の販売店が中心となり「第3回ふれあいLPガスフェア」が和歌山ビッグ愛1階展示場で開催され、491組1,110人の来場者があり、大盛況でした。

今回は特に会場をLPガス会館から駐車場のある和歌山ビッグ愛展示場に変更したため、展示会場も以前の4倍ほど広いうえ、知名度も高く、利便性も良かったため、来場者の増加につながったもの。

また、会場内にLPガス自動車（トヨタプリウス）を展示し、来場者にPRをしました。

屋外ではフランクフルトとポップコーンを振る舞うとともに、オーブンレンジを利用して食パンやピザを焼き、来場者にLPガス器具の便利さ等をPR。

今回は、青年委員会を中心に「火育」として、午前と午後の2回、親子による「火起こし体験」を行い、25組の方々が参加し、好評でした。



和歌山市と防災協定締結



12月20日(金)和歌山市役所の市長室において、古川祐典市議会副議長ご臨席のもと、和歌山市と「災害の発生時におけるLPガス等の供給に関する協定書」の締結をしました。

締結後、大橋健一和歌山市長は、「ライフラインの一つであるLPガス業界との締結はもっと早くにするべきものだ。」と述べ、意義のある協定書の締結ができたことを歓迎していました。また、杉本光範和歌山支部長は、「和歌山市内のLPガス販売事業者が、一丸となってその責任を果たし、市民の命を守るために必要不可欠なものだ。」と述べ歓迎する一方、「LPガスの備蓄は十分であるが、ガスコンロを始めガス器具等の持ち合わせは皆無に等しいため、施設に器具を常設して欲しい。この防災協定締結を契機に、和歌山市の施設でもLPガスを活用して頂きたい。」と述べ、避難施設等へのLPガスの活用をお願いしていました。

また、支部長から来年度の支部予算から「LPガスポータブル発電機」

1台を寄贈する旨発表があり、和歌山市当局もこのサプライズに大喜びでした。



地域保安指導事業 今年も4会場で実施

経済産業省の委託事業として実施している「地域保安指導事業」が本年度も4会場で開催され、会員事業者、行政担当者等延べ310人が熱心に受講しました。

本年度は、「LPガス災害対策」と「業務用厨房機器のメンテナンス」の2項目について講義を行いました。

「LPガス災害対策」では、「東日本大震災を踏まえた今後の液化石油ガス保安の在り方について」(総合資源エネルギー調査会 高圧ガス及び火薬類保安分科会 液化石油ガス部会報告書)に掲げられた【14の対応策】について講義を行い、地震、津波対策として、容器の固定方法(鎖掛け)の見直し、50kg容器へのプロテクター取り付け及び和歌山県からも要請されている「ガス放出防止型高圧ホース」の設置を働きかけました。

また、「業務用厨房機器のメンテナンス」では、最近増加している業務用厨房でのCO中毒事故を未然に防止するため、機器のメンテナンスについて講義を行い、和歌山県から係る事故が発生しないよう呼びかけを行いました。

本年も、新コスモス電機(株)の協力で、ガス検知器の無料点検を実施して頂きました。担当者からは「検知器はいつも正常に使える状態に維持してほしい」と説明がありました。

講習会場ごとの受講者は下記のとおり。平成26年度も実施する予定ですので、1事業所、1名以上の参加をお願いします。

日	会場名	受講者数
10月21日(月)	田辺市:紀南文化会館	65人
10月22日(火)	那智勝浦町体育文化会館	78人
11月14日(木)	粉河ふるさとセンター	54人
11月22日(金)	和歌山市:プラザホープ	113人

第8回大阪モーターショー



12月20日(金)から23日(祝)、インテックス大阪において、第8回大阪モーターショーが開催されました。

近畿LPガス連合会として、3号館の「エコカーと暮らしの未来ゾーン」エリアにブースを設け、「トヨタアクア」を展示し、最先端LPG車が実現する人とクルマと都市の未来をテーマに出展しました。

出展車は、市販のハイブリッドカーである「アクア」にLPGでも走れるように、車載用のLPG容器を車体後部に積載し、ガソリンとLPGを自動的に切り替えるインジェクターを付けた車です。

ガソリン、LPG、バッテリーで走るハイブリッドカーで、ガソリン35ℓ、LPG36ℓの燃料を満タンにすると、1,800kmから2,000km走る「究極のエコカー」です。

また、トヨタ自動車の出展ブースには参考出展ながらコンフォートに次ぐ次世代タクシーも展示されており、注目を集めていました。

年末の忙しい時期にもかかわらず、大勢の来場者があり、賑わっていました。



あやしげなチラシ 兵庫県東部で配布される

ネットブローカー

去る10月17日(木)に東京の(一社)プロパンガス料金適正化協会という団体が、兵庫県東部の川西市、伊丹市、尼崎市、西宮市等で朝日新聞、神戸新聞等の折り込みチラシで、「家計負担を減らす活動をしています」[ガス料金値下げ、無料相談ほっとライン]基本料金1,600円、従量料金@380円[高いかな?]と思ったらすぐ連絡ください。という内容を明記したチラシが配布されました。

幸い和歌山県内ではこのような事実はないのですが、このような団体の真意は、ガス事業者にお客様を紹介したい訳でも、お客様に適正価格で供給できるガス事業者を紹介したい訳でもなく、ガス事業者に新規顧客を紹介し、手数料を取る、いわゆる「顧客転がし専門業者(ブローカー)」なのです。

ガス事業者に、顧客を紹介するから安く供給するよう勧め、斡旋料(1軒5~6万円)を徴収する。

ガス事業者は最初の数ヶ月間は安く供給できるかもしれないが、いずれは値上げせざるを得ない状況になってくる。値上げした途端、顧客は再度このような斡旋業者に、他のガス事業者への切り替えを依頼する。または定期的に斡旋業者から顧客に電話し、料金が上がってないか確認し、上がっていれば他のガス事業者を紹介する。チラシには「責任をもって紹介させていただきます。」とあり、言い換えれば「何度でも紹介します」という意味である。

斡旋業者には何のペナルティもリスクもなく、次のガス事業者を紹介し手数料を徴収する。この繰り返しで儲ける仕組みです。顧客にどんどん切り替わってもらわないと儲けに繋がらないような仕組みを作り上げています。

この切替斡旋業者の食い物になっているのが、実は善良なLPガス事業者なのです。新規顧客を獲得したいという思いは理解できますが、このような手口につっかからないよう十分に気を付けてください。